

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	益田保健所	氏名	浅野 美紀
派遣先 団体名	NPO法人 息域スペース ポコ・ア・ポコ		

① 研修の日時

平成27年9月1日（火）～3日（木）、7日（月）、8日（火）8:30～16:00

② 研修の内容

- ・ 1日目 自己紹介、共同作業（自主製品の作成）、音楽療法
- ・ 2日目 共同作業、生け花体験
- ・ 3日目 ポコ・ア・ポコの成り立ちや、社会福祉等についての講義
市内の関係施設や事業所の見学
- ・ 4日目 共同作業
- ・ 5日目 共同作業、研修の振り返り

息域スペース ポコ・ア・ポコは、ノーマライゼーション（障がいのある人もない人も同じ地域の中で一人の人間として生きていくことが「当たり前の社会」である）の考えを基本理念に、一人ひとりの「生きる」スペースを作るため、地域の中での居場所づくりやQOL（生活の質）を高めることを基本に活動しております。今回の研修では、「障がいを持つ人から学ぶ」をテーマに、ポコ・ア・ポコでの共同作業（自主製品の作成）や文化活動（音楽療法や生け花）などを通して、障害や福祉に対する理解を深め、地域の社会福祉の現状を学びました。

○共同作業について

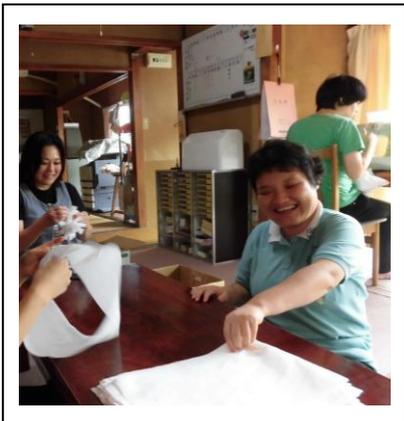
自主製品であるふきとりーな（ウェス製品）などの作成を行いました。数種類ある自主製品は、ひとつひとつが手作業で作成されており、ポコ・ア・ポコの玄関先や、合庁の売店などで1つ100円から販売されています。

○文化活動（音楽療法、生け花）について

月に数回講師を招き実施しておられます。

体の不自由な方も介助を受けながらにこやかに過ごせる時間であり、こちらも自然と笑顔になりました。





○市内の関係施設や事業所の見学について
以下の3か所に伺い、益田市内の障がい者の就労の現状
や、その支援の様子を実際に見学することが出来ました。

- ・益田障がい者就業・支援センター エスポア
- ・地域生活支援センターポケットプラザ
- ・多機能型事業所はっぴーはうす

研修中印象的だったのは、作業をしているとふらりと誰かがやってきて作業に加わり、お話しをされている様子です。そしてまたふらりと帰っていかれる。ゆったりと流れる時間が訪れる方の癒しになっているのだと感じました。

障害や福祉といったキーワードで地域を見るとやはり不足や改善するべき点は多く、一朝一夕でどうにかなるような簡単な問題ではありません。しかし、そのような現状の中で、ポコ・ア・ポコのような“居場所づくり”は地域にとって必要なものであり、そのような場を安定的に継続させていくためには、まずはひとりひとりが障害や福祉をもっと身近に感じ考えていくことが必要なのだと分かりました。



③ 研修の感想

今回、5日間の研修は驚くほどあっという間に過ぎてしまいました。事前打ち合わせの段階からポコ・ア・ポコみなさんに暖かく迎えていただき、研修中も笑顔の絶えない5日間でした。この研修に参加するまで福祉の現場に行ったことのなかった私にとっては、障害や福祉といった事柄についてじっくり考える機会になり、また、普段の職場とは違う環境に身を置くことで様々な気づきや学びがあり、充実した研修となりました。

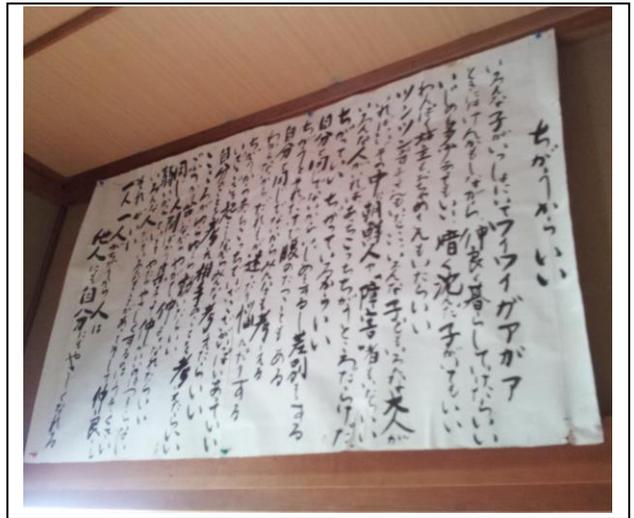
研修に参加してみて変化したことのひとつは、自分の中にあった障害に対する無意識の躊躇が無くなったことです。研修中、ポコ・ア・ポコの小川理事長から、「障害とは、「生きづらさ」「暮らしづらさ」「居場所の無さ」。障害というものは固定されたものではなく、社会のありよう、人間関係、時代、地域などで変化していく。」とレクチャーがありました。

この言葉を聞いて、ハッとさせられました。正直なところ、この研修に参加するまでは、「障害」と聞くと無意識に身体的なハンディを思い浮かべ「どう接したら…？」と考え躊躇してしまっていました。しかし、障害を「生きづらさ」「暮らしづらさ」だと考えると、障害というものをとても身近に感じる事ができ、心の中にあつた無意識の躊躇が自然と消えていきました。障害には様々な形があり、誰しもが何かしらの「障害」を感じ、抱え、あるいは持っている。障害と聞いて変に構える必要はなく、相手が誰であれ、大切なのは相手に敬意を払い尊重する気持ち。それがあれば大丈夫なのだとこの研修で学ぶことが出来ました。

また、改めて、人はちがっているからいいのだとも教えていただきました。

ポコ・ア・ポコには「ちがうからいい」という詩が掲示してあり、人それぞれの多様性を認め、「一人一人ちがうから、人は他人にも自分にもやさしくなれる」という言葉で締めくくられています。人は一人一人ちがうから、いじめや差別も生まれるけれど、だから人は考え、そして優しくなれる。

ともすれば、自分の固定概念から視野を狭め、人と繋がることに消極的になっていた自分に気付かされました。今回研修に参加したことで、自分の中にあった固定概念が変化し、視野を広げることが出来たと感じています。



法人名の「息域スペース ポコ・ア・ポコ」という名前には、生きることはゆったり息の出来ることであり、ひとりひとりがゆったりと息をしながら生きる場所を作っていきたいという思いが込められています。ポコ・ア・ポコでは利用者の方、スタッフの方、みなさんの中に「他者を尊重する姿勢」が息づいていました。このような場であったからこそ、私自身、研修中のさまざまなことを素直に吸収し、自分の中の気づきや学びとして得ることが出来たのだと研修を終えた今感じています。

また、県職員としては「島根に住む人が、ゆったりと息がしやすくあるためには？」という宿題をいただけたように思っています。

今回、職場から一歩外に出ることで、様々な発見がありました。

そして感じたのは、「知る」ということにもっと貪欲でいなければならないということです。知ることから、考え、調べ、工夫し、創造する。知らなければ何も始まらない。言葉にすると当たり前のことなのですが、研修に参加して再認識することが来ました。

今後は、今回の研修で得たものをまずは自分の業務に活かしていけたらと考えています。知らないからと言うのではなく、ちがうからと線引きをするのではなく、自分から知る姿勢を持ち、ちがうからいいのだと寛容性を持って認め、そして、少しずつでも何かの創造に繋がるような仕事が出来るとなればと思います。

最後に、このような貴重な体験をさせていただけた、ポコ・ア・ポコのみなさんに心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。